

## 総合特別区域評価・調査検討会における評価結果の概要(令和2年度)

### 2. 分野別状況(2)地域活性化総合特区 ⑥まちづくり等分野(1/3)

	総合評価 (IとIIとIIIを1:1:2の割合で計算)	I	II	III	総合評価に係る専門家所見(主なもの)
		目標に向けた取組の進捗	支援措置の活用と地域独自の取組の状況	取組全体にわたる事業の進捗と政策課題の解決	
ふじのくに防災減災・地域成長モデル総合特区(静岡県)	4.5	4.9 進捗度 ・防災・減災機能の充実・強化 98% ・地域資源を活用した新しい産業の創出・集積 122% ・新しいライフスタイルの実現の場の創出 120% ・暮らしを支える基盤の整備 117%	4.5 規制の特例等 ・6次産業化の推進に関する優遇措置の適用要件の緩和 等 財政支援等 ・新東名新富士IC周辺物流拠点創出事業 ・総合特区支援利子補給金 等 地域独自の取組 ・緊急地震・津波対策交付金(財政支援) ・新規産業立地事業費助成(財政支援) 等	4.3	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本特区における防災・減災に関する取り組みである防潮堤整備や避難場所づくりも進行していることがうかがえた。</li> <li>・物流については、コロナ下で顕在化したサプライチェーンに係る課題について、地域産業の振興と併せた形で取り組んでほしい。</li> <li>・新型コロナウイルスの影響をプラス面マイナス面の両方から丁寧に考察し、目標達成に向けた取り組みの再考を行っている点が高く評価できる。</li> <li>・気候変動による激甚災害のリスクが年々高まっており、防災・減災機能の充実・強化の重要性が増している。関連項目でのさらなる進捗を期待したい。</li> <li>・産業創出やライフスタイル創出分野で兆しのみられるポスト／ウィズコロナを見据えた新たな工夫について、今後も検討いただきたい。</li> <li>・既存住民や既存産業の巻き込み、空き家・遊休地活用に関する取り組みに充実がみられる点が評価できる。</li> <li>・本件は、長期的な対応が迫られる事業であるが、県全体の体制によって全般的に十分な対応がなされている。</li> </ul>

総合特別区域評価・調査検討会における評価結果の概要(令和2年度)

2. 分野別状況(2)地域活性化総合特区 ⑥まちづくり等分野(2/3)

	総合評価 (IとIIとIIIを1:1:2の割合で計算)	I	II	III	総合評価に係る専門家所見(主なもの)
		目標に向けた取組の進捗	支援措置の活用と地域独自の取組の状況	取組全体にわたる事業の進捗と政策課題の解決	
持続可能な中山間地域を目指す自立的地域コミュニティ創造特区 (新潟県長岡市)	4	3.6 進捗度 ・住民基本台帳人口 -272%  ・市政への満足度(バス・電車など公共交通機関) 《定性的評価》  ・各地域で民間の路線バスが運行されていないエリアにおいて、民間事業者でも行政でもない『自立経営型NPO法人』が行う生活交通事業により運行サービスが受けられる市民の割合 100%	4.3 規制の特例措置 ・生活交通事業(自家用マイクロバス有償貸渡)  ・過疎地有償運送の旅客の範囲の緩和  地域独自の取組 ・公共交通等確保維持事業(財政支援)  ・山の暮らし再生事業(財政支援)  ・長岡市中山間地域自立促進協議会活動支援先進地視察(その他)	4	<p>・いずれの地域においても、NPOや集落組織等により生活サービスの提供や支援事業に取り組んでいることが確認できた。生活交通の支援に関しても堅調に維持している。</p> <p>・人口減少については自然減も多く、歯止めが効かない側面はあるが、本特区が取り組む生活サービス支援の維持や、交流・対流事業を行うことにより、地域コミュニティの涵養をはかり、住み続けられる地域としての整備を維持・発展させてゆくことを望みたい。</p> <p>・新型コロナウイルスの影響で外出を控える住民が増加している状況で、生活交通サービスを維持していくことはかなり厳しいと推察される中、一部減便がありながらも、生活交通サービスを提供し続けている点を高く評価したい。</p> <p>・移動ニーズが減少する一方で、買い物支援等の生活サービスの提供やコミュニティ機能維持の重要性が増すと考えられ、交通に限定しない包括的な生活支援の実施・継続に向け、より一層の工夫に期待したい。</p> <p>・新型コロナウイルスの影響下であっても視察やグリーンツーリズム等の交流人口を維持する仕掛け、またそれと連動した生活支援サービスの提供方策についても検討いただきたい。</p> <p>・本事業は、過疎地域における交通サービスの充実によって過疎化の進展を食い止め、地域振興を図ることを意図している。実態が厳しい中で個別の施策が大きな影響を及ぼすことは難しいが、本件提案のNPO法人による有償旅客輸送が制度化されるなど大きな成果を上げてきた。このような先見性、自治体の努力は正当に評価されるべきであると考え。</p>

総合特別区域評価・調査検討会における評価結果の概要(令和2年度)

2. 分野別状況(2)地域活性化総合特区 ⑥まちづくり等分野(3/3)

	総合評価 (IとIIとIIIを1:1:2の割合で計算)	I	II	III	総合評価に係る専門家所見(主なもの)
		目標に向けた取組の進捗	支援措置の活用と地域独自の取組の状況	取組全体にわたる事業の進捗と政策課題の解決	
柏の葉キャンパス「公民学連携による自律した都市経営」特区 (千葉県柏市)	3.8	4.4  進捗度 ・各主体の参画による活動の活性化 104% ・新ビジネス創造と地域経済の活性化 102% ・AEMSを活用した環境配慮型都市の確立 178% ・先進的・包括的健康・介護サービス体制の構築 66% ・虚弱予防活動の展開 72%	3.4  規制の特例等 ・訪問リハビリテーション事業所整備推進事業 ・歯科衛生士等居宅療養管理指導推進事業等 地域独自の取組 ・事業推進に向けたプロジェクト連携会議の開催等	3.7	・各主体の参画による活動は、それぞれの分野で取り組まれている状況が確認できた。また、エネルギー関連の事業も進行していると思われる。 ・ヘルスケア関連の取組については、コロナの影響により見通しがつかない部分もあるだろうが、制約があるなかでいかに取り組んでいけるか今後も検討と実践も継続してほしい。 ・まちづくり分野との関連が強い都市経営分野では目標値を上回る成果を達成しており、柏の葉スマートシティ事業への展開も加速していることから、今後のさらなる進展が大いに期待できる。 ・しかしながら、目標値を達成している数値目標の中に、前年度と比べて減少に転じているものがある。新型コロナウイルスの影響も一因と推察され、コロナ禍での取り組み継続に向けた一層の工夫が求められる。 ・ベンチャー支援や環境分野でも進捗がみられるが、ライフイノベーション分野での進捗を測れない状態が続いている。定量化できない取り組みの積み重ねが、最終年度での目標達成に結びつくよう今後の取り組みを期待したい。 ・本件は公民学連携による柏の葉プロジェクトの一部として機能しており、一部に目標達成しえない項目があるものの、全体として十分に機能していると考えられる。